

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

日本会計コンサルティング株式会社

②事業者情報

名称：	ルミエール保育園	種別：	保育所
代表者氏名：	市橋榮子	定員(利用人数)：	60 名
所在地：	〒 337-0041 埼玉県さいたま市見沼区南中丸939-5	TEL	048-683-1216

③評価実施期間

令和3年7月1日（契約日）～令和4年3月15日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

・コロナ禍において園庭利用をして戸外遊びを楽しめ、食べる楽しみを味わっています  
 今まで園外で散歩を楽しむ機会が多く持てましたが、コロナ禍で控えるようになっていきました。しかし、子どもの心身の豊かな成長のために、戸外での活動を保障したい思いから日中活動に園庭での遊びを十分するように進めています。0歳児も、保育室のそばにある園庭を活用しています。他のクラスでは、時間帯を譲り合いながら園庭で体を動かす活動を保障し合っています。子どもが身体をたくさん動かし、お腹をすかして食事に向かいますので、どの子どもも食欲が進み、食べる楽しみを抱えています。食後は、体を休めて、午後の活動を楽しむことができます。

・子どもの生活に豊かな遊になるように静かな活動と体を思い切り動かす遊びのメリハリをつけて体験学習をしています  
 子どもの生活の体験活動は、子どもの心身の成長に合わせて0歳児から積み上げています。保育園では、活動を「静と動」の活動として年齢に合わせた遊びの内容を組み立てて保育をしています。保育園の基本カリキュラムに従って、年齢別保育と交流保育を体系立てています。静かな遊びでは年長児が卒園する頃には座って待てる時間帯を小学校の1コマの時間帯を念頭に0歳児から意図的に行っています。特に、教育の視点を持った体験は子どもの好きなものを見つけられるように英語、リズム、絵画などの活動を取り入れています。

・コロナ禍の中で感染症対策はもちろんのこと、ヒヤリハットを活用した事故防止の取り組みなど、子どもの安全を守る取り組みを行っています  
 常々、「保育で一番大切なことは子どもの命を守ること」とであると職員に伝え続け、そのための対策を講じています。コロナ禍においては感染症対策を徹底し、園内研修ではノロウイルス対策として嘔吐物処理等を全員ができるようにしています。アレルギー児がいるため、給食の提供に誤りがないよう細心の注意を払い、これまでに誤食の事故は起きていません。ヒヤリハットの作成を習慣化して、職員会議で全員で事故の可能性を共有することで防止に努めています。

◇特にコメントを要する点

・近隣に新しい保育園が増えたため、利用希望者等に向けたさらなる情報発信に取り組んでいくことが望まれます

市内にはここ数年で多数の保育園が開園しています。周辺にもいくつかの保育園ができたことで、園児獲得の競争が激しくなってきました。安定した運営を継続していくためにも、新しい園児の獲得は重要になってきます。現在はホームページを中心とした広報活動をしていますが、他の方法等も模索していき、園の特徴等が利用希望者により伝わっていく情報発信に取り組んでいくことが望まれます。

・中長期計画と事業計画が策定されていますが、より具体的な内容に見直していくことを期待します

将来の方向性を示す中長期計画と、毎年の事業計画が策定されていますが、内容がやや抽象的なものになっています。理事会等では経営層による具体的な話し合いが行われていますが、それが計画として書面にはまだ反映されていない状況です。可能な範囲で具体的に示し、また目標の達成度合いを測ることができるよう目標の数値化もすることで、関係者にとってわかりやすくなると思われます。そして、中長期計画の内容を反映した事業計画にすることで、継続性のある取り組みに繋がると考えられます。2つの計画について見直していくことを期待します。

・コロナ禍で保護者が保育室に入れず、保育室の実態を把握しにくいとの声があり、情報発信の方法に工夫が期待されます

子どもの生活の安全を図るために感染症であるコロナ感染への対応に、送迎時や行事の参加などで保育園に入ることができない状況が続いています。職員はその都度必要な情報発信をしておりますが、長期間にわたるコロナ感染症予防対策に対する意見もあります。社会状況も変化していますので、子どもの感染症を最小限にする集団生活の保障が求められています。また、県やさいたま市の指導の基に丁寧な情報発信をしていますが一部の保護者には、保育園内部の情報への工夫がほしい旨の声が出ています。今後の対策や対応がどのようになるのか見通せない中ではありますが、我が子について保育室の内容が工夫される情報発信に期待します。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回の受審に際しまして、コロナ禍にあり保護者の皆さまとコミュニケーションが取りにくくなっていることに寂しさを感じており、アンケート結果に不安を感じていました。保育園は保育を行う場で家庭では育児を行い、その育児と保育とが両輪になって1人の子どもの命を育てられるよう日々スタッフも一生懸命に保育業務に従事しています。そんな中でコロナ禍に職員も大変に戸惑い、制限された行事や保育対応をしています。保護者の方へ保育の様子をご覧いただく機会が少なくなってしまうことも園としては残念でならず、今後は新しい取り組みなどを模索し続けていこうと考えています。保護者の方ももちろん、地域の方々とも力を合わせて子どもたちの育ちを見守っていこうと強く思いました。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり